

第1回 安威川ダム周辺整備検討委員会

資料2：安威川ダム周辺のあり方について

目次

1. 安威川ダムを取り巻く状況の整理	1
2. 安威川ダム周辺のあり方	2
3. 安威川ダムと隣接地域のつながり	3
4. 安威川ダムのエリア構成	6

平成19年7月30日

大阪府・茨木市

1 . 安威川ダムを取り巻く状況の整理

「資料1：主旨及び現状説明」では、安威川ダムを取り巻く状況や上位計画・関連計画に掲げられる安威川ダムとその周辺の位置づけを掲げた。

これらの状況を総括的に整理すると、以下の事項があげられる。

(1) 安威川ダム周辺整備に関わる事業

ダム事業の進展

- ・平成20年代半ばの完成を目指し、代替地整備後は本体工事の着手が予定されている。
- ・平成18年度末時点で、水没や付替道路用地として必要な約142haのうち、140ha(約99%)が取得済みとなっている。
- ・車作地区、生保地区、桑原・大門寺地区の代替宅地、代替農地の造成工事が進んでいる。
- ・付替道路である府道茨木亀岡線の整備が進められており、平成18年度までに全線の約6割の整備が完了している。

水源地域整備計画(平成12年9月：大阪府)

- ・ダム事業区域周辺の社会資本整備計画を決定しており、その内スポーツ・レクリエーション施設として、ダム湖畔展望広場、遊歩道等の整備(事業主体：茨木市)が計画されている。

(2) 安威川ダムを取り巻く条件特性

社会条件特性

- ・安威川ダムは、茨木・高槻の市街地から直線距離で約6kmの距離であり、市街地に近接している。
- ・茨木市中心部からバスによる公共交通利用により短時間でアクセスでき、さらには新名神高速道路・(仮称)茨木北ICや国際文化公園都市「彩都」へのアクセス道路が計画されるなど、広域的な交通便利性にも恵まれている。
- ・国際文化公園都市「彩都」の整備進展などを要因とし、周辺では人口増加傾向にある。
- ・安威川ダム周辺は大半が市街化調整区域に指定されている。また、安威川右岸側の山間部集落(車作、大岩地区など)や安威川下流部(安威地区など)において、農業振興地域が指定されている。
- ・竜王山から安威川左岸側を中心として、近郊緑地保全区域が指定されているほか、ダム周辺は、雑木林や植林地、代替農地を含む農地や棚田、集落などの里山環境が形成されている。
- ・周辺には、竜王山、竜仙峡、東海自然歩道などの自然資源のほか、阿武山古墳、権内水路、桑原遺跡などの歴史・文化資源、桑原運動広場、ゴンゴンファクトリーなどのスポーツ・レクリエーション資源を有している。

自然条件特性

- ・水と緑に囲まれた渓谷環境を有している。
- ・ダム周辺では、約3,000種の動植物の生育・生息が確認されており、国内では希少な種、府内ではダム周辺にしか生息が確認されていない種が見つまっている。
- ・ダムの完成によって、約34haの新たな水面・水辺が生まれる。

上位計画・関連計画の方向性

- ・茨木市総合計画、茨木市都市計画マスタープラン、茨木市緑の基本計画では、「生態系等に配慮しつつ、ダム周辺の水辺を活かした観光レクリエーション拠点の形成」を掲げている。
- ・安威川ダム自然環境保全マスタープランでは、動植物の生息環境の保全、新たに出現する水環境の保全・創出などを方針としている。

安威川ダム周辺における既検討及び関連調査等

(a) 安威川ダム水源地域再建実行計画(平成14年3月：茨木市)

- ・「水と緑の織り成す創造と交流のオアシス拠点づくり」を整備コンセプトに、ダム及びダム湖周辺のエリア構成や整備展開イメージなどが検討されている。

(b) 安威川ダム自然環境保全マスタープラン(平成17年8月：大阪府)

- ・「水がたぐく“自然・人・文化”を育む安威川ダム」を基本理念に、ダム及びダム湖周辺の環境保全のあり方、様々な主体の参画や地域との連携による保全対策の推進などの基本方針が設定されている。

(3) 安威川ダム周辺整備に関わる社会動向

時代潮流

- ・人口減少、高齢化等を前提とした自治会など地縁型のコミュニティの再生や、定住人口以外の多様な人口の視点も重視した地域活性化の取り組みが求められる。
- ・ハード・ソフトを組み合わせた適切な災害への備えを充実させるとともに、環境問題への対応や良好な景観の形成等に取り組んでいく必要がある。
- ・ライフスタイルの多様化に対応し、地方圏・農山漁村への居住などの動きを捉え、地域の活性化等につなげていく必要がある。また、幅広い「公」の役割をNPO、企業など多様な主体が担いつつある状況をふまえ、個人、企業等の社会への貢献意識の高揚と、地域の活性化や施設維持管理などを担う主体の育成につなげていくことが必要である。

余暇活動の将来展望

- ・少子高齢化に伴う人口減少にあわせて、余暇活動の参加人口も減少に向かうと予測される。
- ・参加人口の量的拡大の限界が見えることから、供給側としては「質的」な高度化、余暇や旅行の個人化・多様化の動きに応じたきめ細かな対応を検討していくことが必要である。
- ・「温浴施設」や「ペット」など、既存の余暇活動・市場の外側に多様な余暇領域が形成されはじめており、従来の余暇活動や産業・市場の枠を超えた新たな活動や商品・サービスの開拓も重要となる。
- ・団塊世代の余暇ニーズである「健康」「自然」「地域」「能力」への着目が必要である。

(4) 大阪府における緑地保全等に関するボランティア活動の動向

- ・全国的に、公園や緑地などの公共空間におけるアダプトプログラムやボランティア活動、環境学習活動の拡大や定着が見られるなか、府においては、グリーンこらぼねっと、アダプトフォレスト制度、アダプト・リバー・プログラム等の緑地保全等に関するボランティア活動の促進を実施している。
- ・安威川ダム周辺では、車作地区で里山保全活動を行っている「車作里山倶楽部」があり、雑木林の定期的な管理や雑木林の資源を活用した観察会や自然体験活動などの展開を行っている。

2. 安威川ダム周辺のあり方

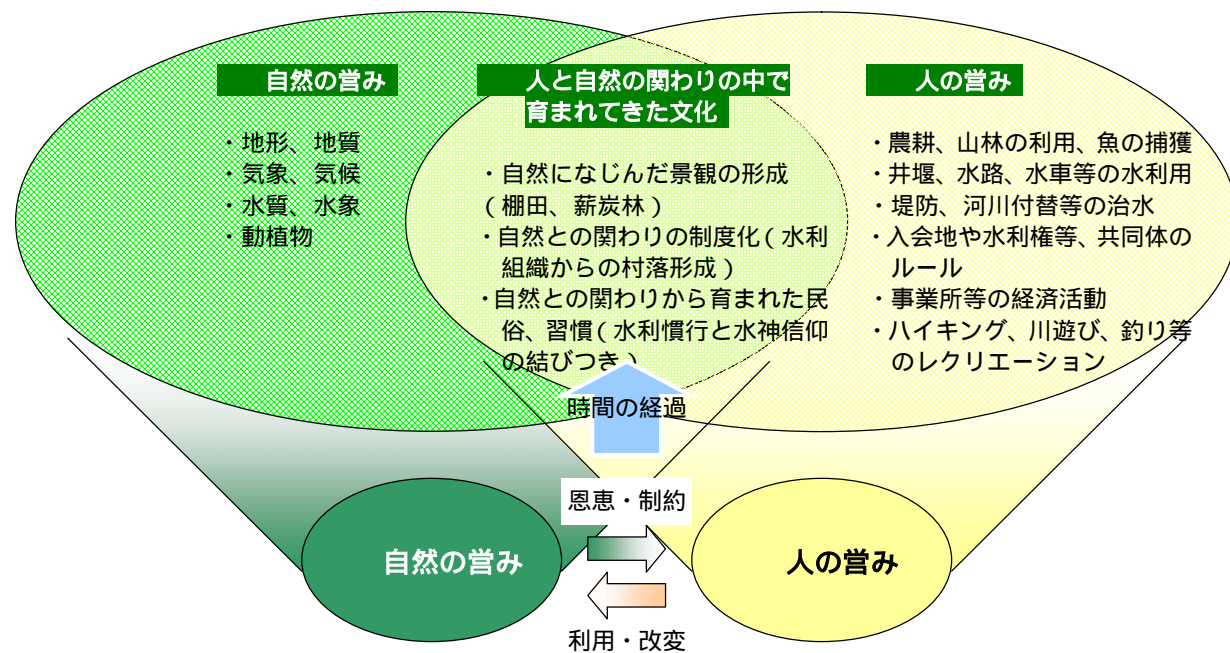
(1) 安威川ダム周辺の目指すべき方向

安威川ダム周辺は、古来より自然と人々が共生する空間として利用されてきた。

薪炭、材木としての雑木林の活用、山間における棚田の開墾、農業用水確保のための水路開削など、自然と人の営みが交わり、現在の里山環境を育ててきたことがうかがえる。

豊富な動植物の生育・生息が確認されている安威川ダム周辺においては、自然環境保全マスタープランに基づき、自然環境の保全に配慮した空間整備が求められているが、現在の環境を保全していくためには、定期的な維持・管理の実施など人為による適切な管理を必要としている。

そのため、安威川ダム周辺は、ダム完成後においても自然環境の保全を基調として、これまで築いてきた「自然環境」と「人の営み」の望ましい関わり方を定めていく必要がある。



安威川ダム周辺における自然と人の営みの関わり

(2) ダム完成後における自然環境と人の営みの新たなあり方

これまでの安威川ダム周辺をとりまく状況の整理をふまえると、ダム完成後における新たな「人の営み」として、地元・隣接地権者・府民・民間事業者などの活動・協働の場の創出、地域の活性化、水と緑を活用した観光レクリエーション拠点の形成に対する貢献といった新たな価値観やダム整備効果を創造していくことも期待されることである。

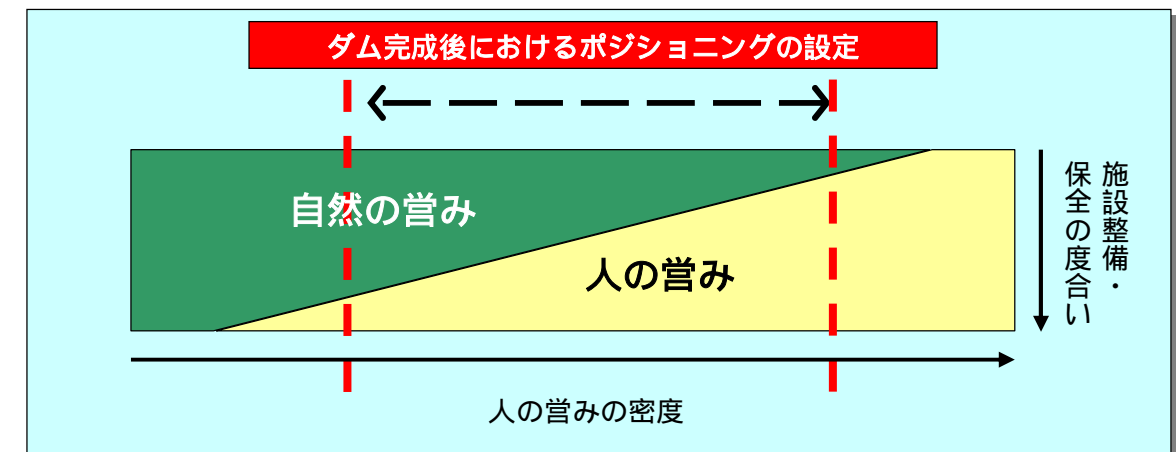
しかしながら、「自然の営み」に比べ、「人の営み」は時代とともに大きく変化し、その変化につれて必要とするモノや施設も変化する。「人の営み」の密度が高いほど、モノや施設の整備・保全の度合いも高くなる。

そこで、自然と人の営みが交わり、里山環境が保全されてきたこの地域において、

今後とも良好な自然環境を保全しながら、府民利用を図っていくためには、どのような手立てが必要となるか？

そのためには、地元・隣接地権者・府民・民間事業者及び行政の参画・連携はどのようにあるべきか？

といった課題に対して一定の方針を示し、ダム完成後における新たな「自然の営み」と「人の営み」の調和が、時代の変化に順応しながら保たれることを目指す。



安威川ダム周辺における目指すべき方向の設定イメージ

以上のことを踏まえ、安威川ダム周辺の整備や保全は、以下の事項に留意した方向性としていく。

現状の条件からの留意点

- ・山間部と市街地の接点に位置
- ・多様な自然資源、歴史文化資源の存在
- ・既存集落、棚田、雑木林などの里山環境

既定の計画・事業からの留意点

- ・安威川ダム周辺に関わる上位計画・関連計画の方向性
- ・ダム及びダム湖の出現、アクセス道路の確保など交通アクセス性の向上
- ・国際文化公園都市「彩都」の整備による市街地の発展

今後の展開に向けた留意点

- ・多様な動植物の生育・生息環境や自然景観の保全
- ・未来に向けたまちづくりに果たすべき「水と緑の空間」としての役割
- ・地元、隣接地権者、府民、民間事業者の参画・連携のあり方

安威川ダム周辺のあり方を検討するにあたっての留意点

3. 安威川ダムと隣接地域のつながり

(1) 安威川ダム周辺の広域的な空間構成の把握

安威川ダム周辺は、平面的な土地利用状況のみでなく、自然の営みや人の営みが創出する里山景観を有しており、空間の特徴を構成している。

この空間の特徴を最大限に生かし、ダム完成後の新たな人と自然の調和を図るために、周辺地域を含めた土地利用状況や自然資源・歴史文化資源の分布状況といった立地環境から導き出される、安威川ダムと隣接地域とのつながりを整理し、安威川ダム周辺の広域的な空間構成を把握する。

加えて、このような広域的な空間の利用・保全に関わる以下の諸条件を整理し、安威川ダムと隣接地域のつながり、現況土地利用や資源特性から、同じ空間構成を有する範囲を設定する。

前提条件

既存の観光レクリエーション資源の位置

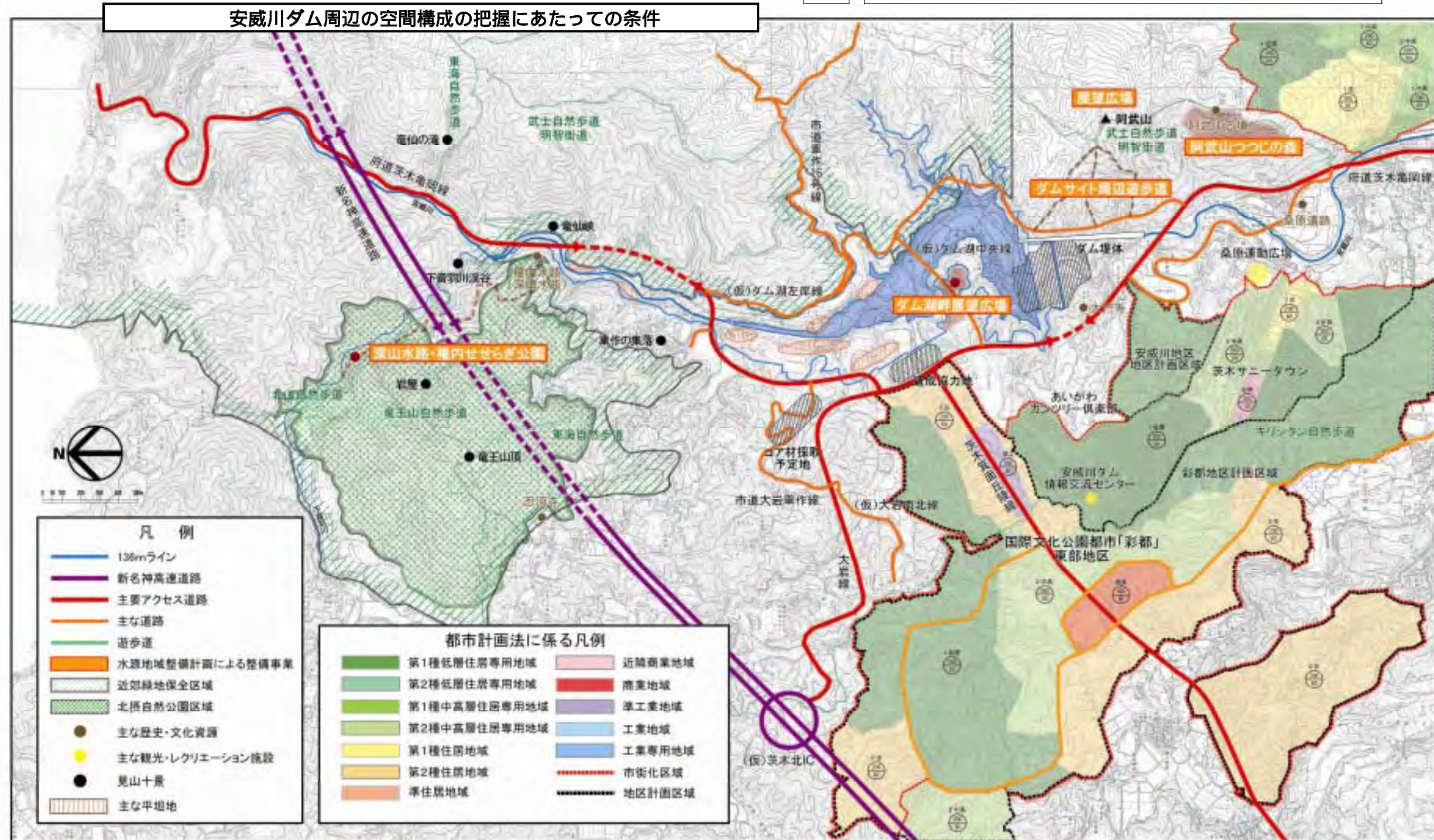
- ・自然歩道、史跡・名勝

関連法令による利用・保全の方向性

- ・都市計画法上の土地利用制限・用途地域
- ・近郊緑地保全区域の指定状況
- ・自然公園法の指定区域

安威川ダム周辺で実施・計画されている事業

- ・道路計画
- ・公園・レクリエーション計画（水源地域整備計画事業）



(2) 土地利用状況から見た安威川ダムと隣接地域のつながり

安威川ダム周辺の土地利用状況から、安威川ダムと隣接地域のつながりを整理すると、以下のような関係となっている。

山間部

- ・ダム事業区域の東側から北側にかけて、森林を中心とする自然的土地利用となっており、阿武山、竜仙峡、竜王山をはじめとする水と緑の空間と多様な動植物の生育・生息空間を有している。
- ・このうち、ダム湖上流部から安威川上流部及び下音羽川沿川をとりまく範囲には、この地域の植生遷移の最終形とされる常緑広葉樹林の群落が広がっている。
- ・ダム事業区域の北西に位置する竜王山を中心とする範囲には、北摂自然公園区域が指定されている。

市街地

- ・ダム事業区域の西側から南側にかけて、住宅地を中心とする都市的土地利用となっている。
- ・このうち、西側に隣接して国際文化公園都市「彩都」東部地区の整備が予定されているほか、北西部が農地と集落からなる市街化調整区域に隣接している。
- ・南側については、住宅団地である茨木サニータウン、農地と集落からなる市街化調整区域に隣接しているほか、茨木市の既成市街地、中心市街地に近接している。

(3) 空間利用の視点から見た安威川ダムと隣接地域のつながり

安威川ダム周辺の空間利用の視点から見た、安威川ダムと隣接地域のつながりを整理すると、以下のような関係となっている。

自然の営み

- ・ダム事業区域の東側から北側にかけては、多様な動植物の生育・生息空間となっている。
- ・水と緑、歴史文化資源が織り成す良好な景観が形成されている。

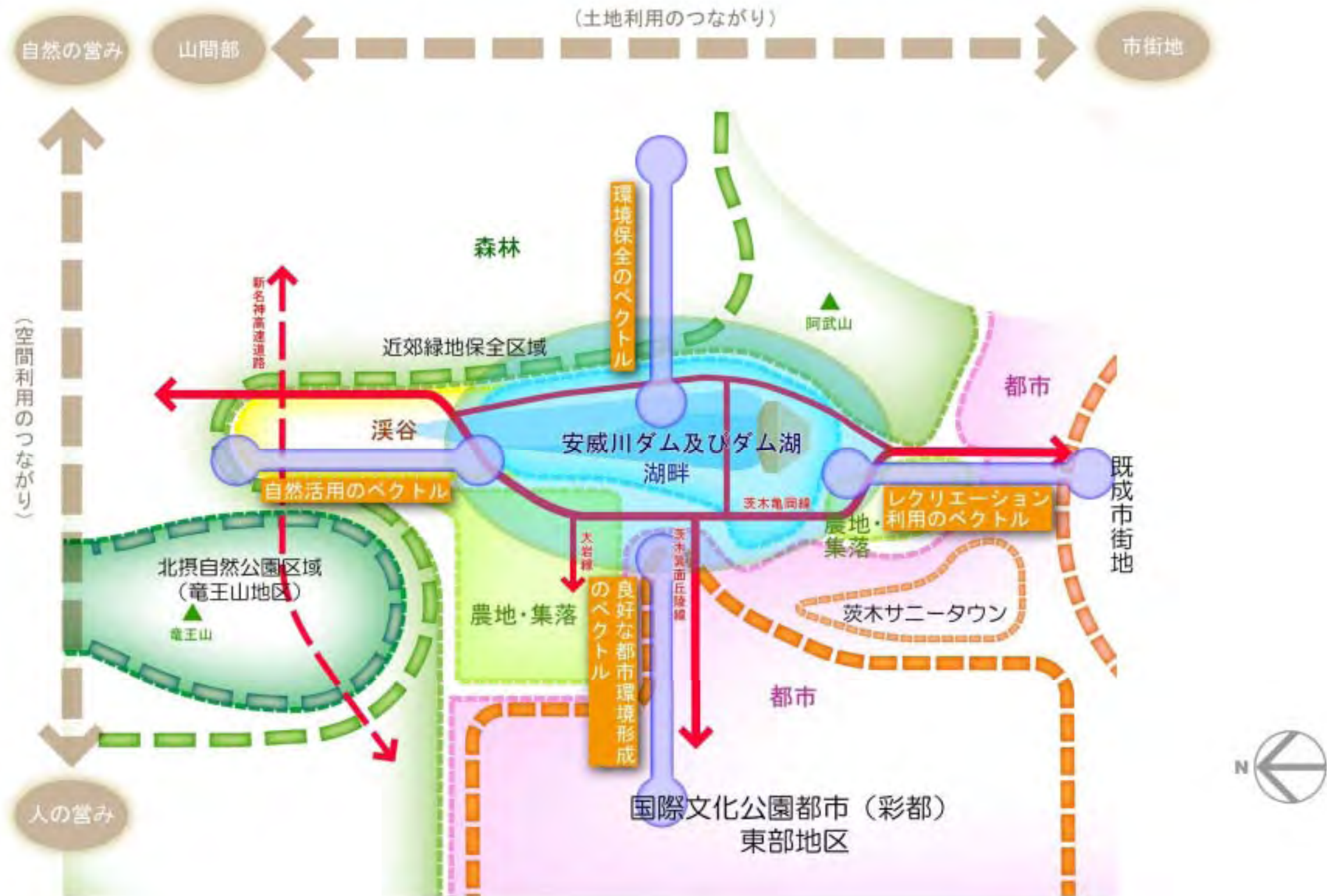
人の営み

- ・ダム事業区域の北側は、北摂自然公園区域や東海自然歩道、渓谷環境など、水と緑とふれあえる自然空間となっている。
- ・かつては炭焼きや水田などの農林業が営まれてきた地域であるが、社会経済情勢の変化や従業者の高齢化などを背景に、地域産業に占める農林業の割合が低下している。
- ・ダム北西側や南側に近接する既存集落では、住宅と農地を中心とする里山空間が形成されている。
- ・安威川ダム事業区域の南西に、大規模な開発による茨木サニータウンが隣接するほか、西側から南側にかけて今後開発が計画されている「彩都」東部地区が隣接するなど、住居系を中心とする市街地形成が図られている。
- ・**新たな人の営みとして、自然の営みとの調和のあり方を検討すべき事項**
- ・市街地に隣接する「水と緑の空間」としてのポテンシャルが高く、積極利用を考慮した整備を行うことによって、周辺住民の日常利用や週末利用が期待できる。
- ・現在のところ、安威川ダム周辺への主要アクセスは府道茨木亀岡線のみとなっているが、国際文化公園都市「彩都」の整備進展にあわせて、都市計画道路茨木箕面丘陵線の延伸が計画されており、周辺市街地から安威川ダムへの交通利便性の向上が期待できるほか、さらに、新名神高速道路と（仮称）茨木北ICの整備も予定されており、将来的には大阪府全域や府外から安威川ダム周辺へ容易にアクセスできる広域交通網が形成されるため、観光・レジャー利用も期待できる。
- ・自然資源を活用した自然体験や自然保全活動、健康づくり活動、歴史文化資源を活用した生涯学習活動などの展開が考えられることから、「心の豊かさ」に対する意識の高まりのもと、余暇活動や社会貢献のために時間消費できる場や活動環境の場の提供といった府民ニーズに、応えていくことも可能である。
- ・常時満水位においてダム湖畔における平坦地の出現、湖岸の左右岸をつなぐルートの確保、竜仙峡も水没しないことから、水辺と一体となったレクリエーション空間の創出が可能である。また、既存の里山景観に湖面の景観が加わることによって景観を楽しむといった活動の魅力向上、周辺のハイキングや溪流釣りといった現在の活動に加えて、水辺や湖面の活用による新たな活動の創出など、多様な空間利用の可能性が高まる。
- ・本格的な少子高齢社会の到来のなか、いわゆる団塊世代を中心とする余暇活動に注目が集まっており、特に「健康維持増進」、「能力向上・学習」、「自然に親しむ」、「地域ボランティア」の活動が期待できる。
- ・全国的にもNPOなどによる里地や里山環境の維持・保全活動の拡大と定着が見られるなか、ダム周辺では車作里山倶楽部が森林の下草刈りや、スギ・ヒノキ林の間伐などの活動を実施しており、里山環境を活用した余暇活動やボランティア活動の場としての役割を果たしていくことが期待できる。

(4) 安威川ダムと隣接地域のつながりの整理

安威川ダムと隣接地域のつながりを整理したものが下図である。

このようにダム事業区域北側の隣接地域とは「自然活用」、東側とは「環境保全」、南側とは「レクリエーション利用」、西側とは「良好な都市環境形成」のつながりを有するといえる。



安威川ダムと隣接地域のつながり

4. 安威川ダム周辺のエリア構成

安威川ダムと隣接地域とのつながり、現況土地利用や資源特性などから、同じ空間特性を有する範囲をエリアと位置づける。

下図に示すように、ダム及びダム湖周辺を「湖畔エリア」、ダム事業区域西側の国際文化公園都市「彩都」から茨木サニータウンの範囲を「都市エリア」、東側から北側にかけての近郊緑地保全区域を中心とする範囲を「森林エリア」、ダム北西側の市街化調整区域を「緑農エリア」、南側に隣接する集落を中心とする市街化調整区域の範囲を「緑住エリア」、竜仙峡、下音羽川渓谷などを含む安威川及び下音羽川上流部までを「渓谷エリア」とする。

各エリアの概要は、右の表に示すとおりである。

エリア名	資源特性	エリアの概要
湖畔エリア	・動植物 ・湖畔景観 ・ダム堤体 ・ダム湖・水辺	・ダム及びダム湖を中心とするエリアであり、水・緑資源の活用が最も見込まれる地区。 ・茨木市都市計画マスタープランでは、安威川ダム周辺は、水辺を活かした観光レクリエーション拠点となっている。
都市エリア	・茨木サニータウン ・国際文化公園都市「彩都」東部地区	・既存住宅地の茨木サニータウン（山手台）から彩都東部地区へと続く市街地が形成される地区。 ・彩都東部地区の東側の生保半島及びその周辺部は、都市的なレクリエーション拠点としての構想がある。
森林エリア	・竜王山、阿武山 ・自然歩道 ・動植物 ・山地景観、森林景観 ・歴史資源	・ダム事業区域北部の森林地帯は、大部分が近郊緑地保全区域に指定されている。また、竜王山周辺は北摂自然公園区域（竜王山地区）に指定されている。 ・ダム事業区域南東部は良好な森林地帯が広がり、緑線に沿って自然歩道が南北に伸び、北部の森林地帯につながっている。
緑農エリア	・動植物 ・里山景観 ・ほ場整備	・主要な道路に沿って集落が点在し、山間に畑田が広がっており、これらが景観を形成している。 ・農業振興地域に指定されている。
緑住エリア	・既存集落 ・ほ場整備	・市街化調整区域であり、農村的土地利用と都市的土地利用の混在が見られる。 ・農業振興地域に指定されている。
渓谷エリア	・竜仙峡、下音羽川渓谷 ・動植物 ・渓谷景観、里山景観 ・歴史資源	・ダム湖上流部から安威川上流及び下音羽川沿川にかけて続く、渓谷をなすエリアであり、渓流と里山環境が景観を形成している。 ・竜仙峡はダムの湛水区域であるが、平常時の湖面はこの付近までこないため、渓流の環境は、ダム完成後も残されることが考えられる。 ・茨木市都市計画マスタープランでは、安威川ダム周辺は、水辺を活かした観光レクリエーション拠点となっている。



	136mライン		水源地域整備計画による整備事業
	主な道路		主な歴史・文化資源
	遊歩道		主な観光・レクリエーション施設
	近郊緑地保全区域		見山十景
	北摂自然公園区域		